

# 令和6年度特別養護老人ホームすなみ荘事業報告

## 事業概況

令和6年度は、アフターコロナを見据えつつ面会方法や施設活動などの検討を行い、利用者やご家族の希望に沿えるよう業務を進めてまいりましたが、一方で利用者や職員ともに新型コロナウイルス感染症を発症し、感染症対策に尽力しなければならない期間が何度かありました。こうしたなか、効率的なサービスが提供できるよう、職員アンケートの実施、補助金活用によるIT機器導入など生産性向上に向けた取り組みを行ってまいりましたが、職員不足が顕著な状況が続き、利用者には必要最低限なサービスしか提供できず、大変ご迷惑をお掛けすることとなりました。

このように新型コロナウイルスを始めとした感染症対策や慢性的な職員不足への取り組みに追われた一年でしたが、利用者へのサービスを第一に考え、より良いサービスに繋ぐことができるよう職員一同取り組み、安定した運営や経営をめざしてまいります。

## 長期目標

- (1) 認知症高齢者、医療ニーズの高い中重度の高齢者、単身高齢者に対して、切れ目のないきめ細やかなサービスの提供に努めました。
- (2) 利用者の自立支援・重度化防止に向けて、多職種協働・データ活用の推進に取り組み、質の高いサービスの提供に努めました。
- (3) 良質な介護サービスの効率的な提供及び安定的な職員確保による働きやすい職場づくりに努めました。

## 短期目標

- (1) 安定経営に向けた取り組み
  - ① 新型コロナウイルス対応や職員の配置人数に配慮しながら入所対応をした結果、実質稼働率は76.8%にとどまり、収入増につながりませんでした。
  - ② 介護保険制度改正に伴う新規加算やLIFEを活用した各種加算の取得を開始しましたが、職員配置の関係でやむなく加算の取り下げを行ったものもあり、収入確保につながりませんでした。
  - ③ 日頃の健康管理や看取り介護を進めることにより可能な限り施設で生活を継続していただくよう努めましたが、一方で入院者を減らすところまではいかず減収の抑制にはつながりませんでした。
  - ④ 定期的に支出内容の見直を行いました。物価高が顕著であり、経費の軽減にはつながりませんでした。
- (2) 介護保険制度改正に対応した取り組み
  - ① 制度改正に伴い生じるサービス提供内容や方法の変更について職員に周知し、サービスの質向上に向け取り組みました。
  - ② 業務改善に向けた委員会の設置や資質向上に向けた取り組みを行い、働きやすい職場環境づくりに取り組みました。

- ③ 電話や文書等で利用者、家族へ説明し、同意・協力のもと共により良いサービスに向け取り組みました
- ④ 制度改正の概要について職員に周知し、サービスの改善・向上をめざしました。

### (3) 利用者本位の介護の充実

- ① 利用者個々の状況を把握しそれぞれのニーズに対応した、個別ケアの充実を図りました。
- ② 施設内の認知症の勉強会等を通じて認知症の理解を深めることで対応力を高め、認知症ケアの充実を図りました。

### (4) 防災対策の推進

- ① BCP（事業継続計画）を定期的に見直し、自然災害や新たな感染症が発生したときに備え、研修・訓練を実施しました。
- ② 地震・火事・水害等を想定した防災・消防訓練や防災設備器具の点検を実施しました。

### (5) 職員の資質向上

- ① 研修委員会を中心に施設内勉強会を通じて知識・技術の習得・向上を図るとともに常に自己研鑽を行い自ら資質向上を図れる組織風土の醸成に努めました。
- ② 優れた介護技術の提供だけではなく、利用者を不快にさせない、不満を持たせない、心のこもった利用者本位のサービスを提供できる職員の育成に努めました。

## 運営計画

※以下、（ ）内は前年度数値

### 1. 各部門の取り組み

#### (1) 介護部門

- ① 利用者の残存機能を活かし、想いを尊重しながら生活支援を行いました。しかしながら感染症対策や職員不足により、利用者の方にゆとりある支援が十分にできませんでした。
- ② 業務改善のひとつとして介護支援ソフト「ケアパレット」を導入し、記録時間の短縮やメモの準備が不要となり効率が進みました。また書類の見直しを行い、簡素化及び用紙の削減を図りました。
- ③ 新型コロナウイルスやインフルエンザに対する感染対策の状況に併せてマニュアルの変更を行いました。
- ④ 備蓄、物品の整備も感染対策用と BCP 用別々に保管場所を決め、職員全員が準備できるように整理しました。

#### (2) 看護部門

- ① 医師の協力による、診療、健康管理、療養指導、医療ケア
  - ・医療ケア担当予定対象の介護員 2 名の実地研修を継続したが、施設内の新型コロナウイルス感染や職員不足により、年度内の研修終了には至りませんでした。

- ・施設内の新型コロナウイルス感染や職員不足により、モデル人形を使用した喀痰吸引研修はできませんでしたので、書面での研修に変え実施しました
- ② 充実した看取り介護の実施
  - ・エンゼルケアマニュアルの見直しと改訂を行いました。
  - ・看取り介護に対する職員教育としての勉強会を年2回実施しました。
  - ・週1回の看取りカンファレンスにおいて多職種との連携や情報交換を図りました。また、週間計画票を活用し目標を設定することで、より具体的に看取り対象者に係ることができました。
- ③ 部署間の連携と情報共有・協調
  - ・施設内の新型コロナウイルス感染や職員不足により、介護及び看護間の情報共有、協調を図る機会はありませんでした。
  - ・ケース会議等に積極的に参加し意見交換を行うことができた。
  - ・LIFE 活用による各部署との情報の共有として利用者全員の既往歴や薬歴を介護支援ソフトに入力することができました。また、薬剤情報の変更や追加も月ごとに担当を決め入力することができました。

### (3) 栄養部門

- ① 食中毒予防策の徹底、衛生管理計画をもとに職員教育、勉強会を実施し、衛生意識の強化を図りました。
- ② 光熱水費の削減に努めました。
- ③ 災害や感染症等、不測の事態に備えた備蓄品の確保及び管理の継続に努めました。
- ④ 栄養マネジメントを強化加算取得のため LIFE への情報提供を開始しましたが、職員配置の都合で年度終盤に算定の取り下げを行いました。

### (4) 生活相談部門

- ① 補助金により導入した情報提供ツール「つながる家族」を活用し、利用者、ご家族へ各種情報をわかりやすく提供しました。
- ② 稼働率の向上には至りませんでした。リニューアルしたホームページ、パンフレットや画像を使用し施設の魅力を積極的にアピールし空床期間の短縮に努めました。
- ③ 自立支援・重度化防止という目標に沿った取り組みは実施しましたが、質の評価やデータ活用を行ったケアマネジメントは体制が整わず実施できませんでした。
- ④ 新型コロナウイルス感染症対応を優先したため、地域との関係づくりが困難でしたが、可能な範囲で事業活動のアピールを行い、選択される施設づくりに努めました。
- ⑤ リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の取組の連携・強化に向けた検討を行いました。
- ⑥ 感染対策を取りつつアフターコロナ後を見越したご家族への情報提供と連携に努め面会や外出支援など活動範囲を広げる取り組みを検討し実施しました。また5年ぶりに家族会を開催し、新施設の見学や利用者とのふれあいが実現できました。

(5) 事務部門

- ① 職員アンケートの実施や補助金活用による生産性向上に努め、職場環境の意改善に取り組みました。
- ② 安全・効率的・快適に業務ができるよう施設内をラウンドし 3S 活動を意識した取り組みを心がけました。
- ③ 物価高騰するなか運営に関する費用の内容を把握しコスト削減に努めました。

2. 利用者本位のサービスの実現

※以下、( ) 内は前年度数値

(1) 利用者が健康的に生きがいを持ちながら生活できるよう、日頃から心身的なサポートに努めるとともに感染症対策を講じながら小規模での行事等を行い、楽しいひとときを提供できるよう取り組みました。尚、サロンや子育て支援活動、地域との交流は新型コロナウイルス感染症対策のため中止しました。

① 趣味・嗜好の支援

月	施設内外行事	内容	その他
4	①お花見ドライブ・②調理実習	①ハイツ中央公園	・桜見物 ・施設内飾り付け
5	①抹茶会・②外出支援	②三原市街地ドライブ	
6	①四中運動会観戦・②買い物	②スーパー	
7	ドライブ	墓参り・コンビニ	
8	夏祭り	ユニット別に感染対策をして実施	
9	敬老会	ユニット別に感染対策をして実施	
10	施設内運動会	ユニット別に感染対策をして実施	
11	外出支援	神明の郷	
12	クリスマス会	ユニット別に感染対策をして実施	
2	レモンシロップづくり	ユニット別に感染対策をして実施	

② 施設内外行事の開催

a 施設内行事参加者延数 (各階にてコロナ感染症対策のため規模を縮小し実施)

花見会	3人(7人)	調理実習	0人(23人)
夏祭り	38人(52人)	敬老会	22人(38人)
運動会	42人(48人)	にぎり寿司	0人(57人)
クリスマス会	53人(33人)	お屠蘇	28人(24人)
節分祭	0人(40人)	抹茶会	58人(78人)
周辺散策	104人(12人)	ふるさと巡り	3人(3人)
誕生会	228人(273人)		

b 施設外行事参加者延数 (コロナ感染症対策で中止)

外出 (ショッピング)	3人(0人)	須波小学校運動会	0人(0人)
三原保健福祉祭り	0人(0人)	四中運動会	0人(0人)
県立大学学園祭	0人(0人)	須波小学校学習発表会	0人(0人)
あいあいキッズ	0人(0人)	四中学習発表会	0人(0人)

③ 機能訓練

④ クラブ活動、レクリエーション等参加者延数

華道	100人(107人)	般若心経	192人(133人)
喫茶	174人(109人)	カラオケ	6人(12人)
行事食	0人(0人)	その他	374人(1445人)
その他	374人(1445人)		

⑤ 行事食（日光浴）の開催 0人

(2) 利用者が生きがいを持ち生活できるサービスを検討し提供しました。

- ① 個別性や自己決定権の尊重
- ② 気持ちに寄り添った介護
- ③ 笑顔で思いやりのあるコミュニケーション
- ④ 高齢者虐待の未然防止や身体的拘束等廃止に向けた対策
  - a 身体的拘束等対象者数 7人(10人)
  - b 身体的拘束等廃止者数 6人(10人)
- ⑤ 羞恥心やプライバシーへの配慮
- ⑥ 権利擁護制度の活用を推進
  - a 成年後見制度利用者数 5人(4人)

(3) コロナ過でも心身ともに健やかな生活のサポートが送れるように努めました。

- ① 日々の過ごし方に着目したケアとマネジメントを実施して状態の改善をめざす
  - a サービス担当者会議 138人(100人)
  - b モニタリング 82人(91人)
  - c ケース会議 3回(10回)
- ② 医師の協力による24時間体制の健康管理、感染症対策、療養指導
  - a 利用者健診者延数 前期69人/後期74人

b 外診者延数

内科	17人(12人)	整形外科	9人(8人)
その他	37人(6人)		

c 往診者延数

歯科	66人( - )
----	----------

d 入院者延数

胃瘻・経鼻空腸チューブ交換	22人(24人)	嚥下性肺炎	4人(8人)
心不全	3人(3人)	発熱	5人(7人)
その他	21人(35人)		

e 医療行為対象者数 R7.3.31 現在

経鼻栄養者	1人(4人)	胃瘻栄養者	8人(8人)
床ずれ対応者	0人(2人)	在宅酸素療法者	8人(7人)
インシュリン療法者	1人(4人)	口腔内吸痰	4人(5人)

f 感染症延発生者数

コロナ	24人(0人)	インフルエンザ A型	1人(0人)
感染性胃腸炎	0人(0人)	食中毒	0人(0人)
結核	0人(0人)		

g 予防接種延実施者数

インフルエンザワクチン	利用者・職員	58人・68人
肺炎球菌ワクチン	利用者	1人(2人)
コロナ感染症ワクチン	利用者	48人(68人)

③ 十分な話し合いのもと利用者や家族の意思を尊重した看取り介護の実施

a 看取り介護実施件数 9人(22人)

④ 身体機能や日常生活動作の維持を目的とした個別プランによる機能訓練の実施

⑤ 日常生活動作(ADL)の維持・向上のための福祉機器や介護用品の検討・導入

a 福祉機器購入

車椅子	2台	リクライニング車椅子	0台
-----	----	------------	----

⑥ 歯科医師による助言や指導のもと利用者の状態に応じた口腔衛生管理

a 歯科医による助言 12回(12回)

⑦ 日常生活動作(ADL)に応じた、食事形態、食事姿勢、介助方法の検討

a 食事形態 R7.3.31現在 利用者67人

普通食	18人(18人)	カット食	7人(9人)
ソフト食	24人(17人)	カット食(小)	1人(4人)
ミキサー食	7人(2人)	ゼリー食	0人(1人)
経管栄養食	9人(10人)		

b 療養食種 R7.3.31現在 利用者67人

常食	2人(2人)	胃潰瘍食	0人(0人)
腎心臓病食	44人(44人)	脂質異常症食	6人(3人)
糖尿病食	12人(11人)	腎臓病食	1人(1人)
肝臓病食	1人(0人)		

⑧ 栄養状態の維持・改善を目的とした経口摂取維持への取り組み

a 栄養リスク R7.3.31現在

低リスク	8人(13人)	中リスク	35人(32人)
高リスク	12人(16人)		

b 経口維持加算Ⅰ算定者延数 117人(95人)

c 経口維持加算Ⅱ算定者延数 117人(95人)

d 経口移行食加算算定者延数 0人(0人)

e 再入所時連携加算算定延者 4人(9人)

⑨ LIFEへのデータ提出とフィードバックの活用によりPDCAサイクルの推進とケアの質の向上

a LIFEへのデータ提出 7回(0回)

⑩ 各委員会の適切な運営

a 各委員会等開催数

身体的拘束等防止委員会	32回(45回)	安全対策委員会	12回(12回)
健康管理委員会	6回(11回)	グループケア委員会	10回(14回)
褥瘡対策委員会	12回(12回)	高齢者虐待防止委員会	3回(4回)
入所検討委員会	12回(12回)	個人情報保護委員会	1回(1回)
サービス改善委員会	3回(3回)	安全衛生委員会(労基)	12回(12回)
給食衛生委員会	12回(12回)		

(4) 利用者や家族の信頼を得るため、個人情報に配慮しつつ、各種相談へ随時対応し、サービスについては丁寧な説明のもと同意を得たうえで提供しました。

① 各サービス担当者による重要事項に関する説明責任の徹底

a 重要事項説明書見直し 1回( 1回)

② 迅速できめ細やかな情報提供

③ 苦情・各種相談への誠意ある対応

a 苦情件数

利用者	0件( 0件)	利用者家族	0件( 0件)
-----	---------	-------	---------

b 市町村への報告件数 0件( 0件)

④ コンプライアンス（法令順守）の徹底

⑤ 各種制度等の情報提供及び代行手続

### 3. リスクマネジメントの徹底

(1) 事故や災害などから利用者を守るため、必要な体制づくりや対策を継続的に行い、前年度よりヒヤリハット件数が減少しました。

① 介護事故の未然防止に向けた対策及び環境整備

a ヒヤリハット・介護事故件数

ヒヤリハット	33件(75件)	事故	1件( 1件)
--------	----------	----	---------

b 市町村への報告回数 1件( 1件)

② 感染症や食中毒に対する標準予防策の徹底

③ 感染症の集団感染に備えた訓練及び各対策の徹底

a 感染症対策訓練実施回数 1回

④ 定期的な防災教育や訓練、防災設備等の点検管理、防災グッズ等の検討

a 防災訓練実施回数

模擬火災消火訓練	3回( 3回)	土砂災害訓練	1回( 1回)
----------	---------	--------	---------

⑤ 感染症や災害発生時に、BCP（事業継続計画）に沿った適切なサービス継続のための定期的な訓練・見直し

a BCP 訓練実施回数 2回

⑥ 備蓄品の確保

a 5日分の水と食料品の管理

b 適正な備蓄品の確保と管理

⑦ 交通安全教育と交通安全活動の実施

a 交通安全教育 4回

⑧ 防犯に係る安全確保の補完・強化

⑨ 個人情報の適切な管理

⑩ リスク発生時の速やかな報連相の実施

⑪ 各種リスクに対するマニュアルの作成と定期的な見直し

⑫ 各種記録の徹底

#### 4. 地域貢献・地域交流

(1) アフターコロナを見据え、施設外での会議や行事等への出席を可能な限り行いました。また感染対策を講じたうえで面会を実施し、新たに立ち上げたホームページ等江尾活用して事業活動の様子を紹介しました。

① 事業所活動の情報公表

- a 年1回の広報誌発送
- b 介護サービス情報公表システムへの登録と情報提供

② 地域ニーズの収集や検討及び解決に向けた活動

- a 地域団体会議への参加回数 2回( 3回)
  - ・須波連合町内会地域福祉ネットワーク会議

③ 地域との交流

a 地域行事参加者延数

須波小学校運動会	0人( 0人)	四中運動会見学	17人( 32人)
須波小学校学習発表会	0人( 0人)	県立大学学園祭	0人( 0人)
四中学習発表会	0人( 0人)	あいあいキッズ	0人( 0人)

※あいあいキッズにクリスマスの記念品贈呈

b すなみ荘受け入れ者延数

実習生	16人( 16人)	面会者	910人(1108人)
-----	-----------	-----	-------------

c 家族・地域参加者数

敬老会(縮小実施)	0人( 0人)	夏祭り(縮小実施)	0人( 0人)
-----------	---------	-----------	---------

d 地域活動への職員派遣回数

1回( 2回)

・須波町内会福祉学習会

④ 非常災害時の訓練への協力

⑤ ボランティア団体の受け入れ

a ボランティア受け入れ者延数

ボランティア	0人( 0人)
--------	---------

⑥ 家族会での情報提供

a 家族会出席者延数

家族	37人( 0人)
----	----------

⑦ 地域住民の相談受付

#### 5. 魅力ある職場づくり

(1) 人材育成を促進し、職員の働く意欲を高めることにより組織力の強化に努めました。

① 待遇の向上

② 好感持てる挨拶の徹底

③ エルダー制度を活用し、業務上の不安解消や人材育成を行う

④ 目標管理制度やキャリアパスに関する取組みによる人材育成

a 資格取得者数

オレンジアドバイザー	0人( 0人)	認定特定行為業務従事者	0人( 0人)
------------	---------	-------------	---------

⑤ マニュアルに基づく統一した内容による新任職員研修の実施

a 新人研修受講者数

7人( 2人)

⑥ 計画的な職場内外研修による知識・技術の向上

a 施設内勉強会

身体的拘束防止	2回( 2回)	感染症予防	2回( 1回)
高齢者虐待	3回( 2回)	介護事故防止・発生時対応	2回( 2回)
医療ケア	4回( 1回)	看取り介護	1回( 2回)
職員心得	2回( 1回)	床ずれ	0回( 1回)
交通安全	4回( 4回)	認知症	1回( 2回)
個人情報とプライバシー	1回( 1回)	苦情	1回( 1回)
口腔ケア	0回( 2回)	BCP	3回( 1回)

b 外部講師受入

新型コロナウイルスの影響で外部講師を受け入れることができませんでしたが、職員が講師になり内部研修を開催しました。

c 外部研修参加者 20人( 14人)

d オンライン研修参加者 18人( 4人)

⑦ 認知症介護基礎研修の受講を支援

a 認知症介護基礎研修 0人( 0人)

⑧ 自己啓発援助への積極的な支援

a 資格取得者数

介護福祉士	0人( 0人)	介護支援専門員	0人( 0人)
-------	---------	---------	---------

(2) 職員がモチベーションを維持しながら楽しく働くことができるよう、職員アンケートや個別面談を実施しました。また、採用活動等行いましたが、面接希望者が少なく面接後の採用に繋がらない状況もあり慢性的な職員不足は続き、時間外労働時間の上昇につながりました。

① 非正規職員から正規職員への転換

a 正規職員転換数 0人( 0人)

② 適正な職員配置による業務負担の軽減

a 職員数 R7.3.31 現在

正規	35人( 37人)	非正規	26人( 20人)
派遣	1人( 0人)		

b 離職率

離職率	12.07%( 11.76% )
-----	------------------

③ 働き方の改善の意見を現場から提言できる環境づくり

a 委員会活動内容

委員会名	取り組み内容と成果
行事委員会	施設内活動の企画・立案・実施・振り返り 個別支援 感染症対応の期間もあり夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス会、節分等季節の行事は、各階で別日、同日でそれぞれ状況に応じて規模を縮小や内容を変更して実施しました。人員不足のこともありゆとりある支援、行事が取り組めませんでした。

地域貢献委員会 (広報委員会)	施設活動の広報に関する取り組み 広報誌作成・ホームページの更新 地域貢献に関する活動
	地域の通学路の清掃活動を年1回行いました。平和の折り鶴を利用者と作成し三原市へ応募しました。「広報すなみ」の発行に際して、できるだけ多くの利用者を掲載できるように、また、元気な姿を見ていただけるように作成しました。
魅力ある職場づくり委員会 (人材育成委員会)	職員の知識・技術の向上を目的とした各種研修の企画・立案・実施
	職員の知識と技術向上の研修を計画をしましたが、感染対策や人材不足により参加型の研修はあまり実施できませんでしたが、ネット等による研修資料の確認を各自で行いました。
身体的拘束等適正化委員会	身体的拘束等防止に関する取り組み
	やむを得ず経鼻の栄養者の方の防御用手袋の使用をしました。定期的に話し合いを行いなるべく使用をしないよう検討し、終了した件もありました。
高齢者虐待防止委員会	高齢者虐待防止に関する取り組み
	感染対策を行いながら十分な勉強会の時間をとることは難しかったのですが昨年度は各階にて高齢者虐待、職員の倫理性に注目し日頃の職員が声掛けを意識するよう取り組みました。
褥瘡対策委員会	褥瘡予防に関する取り組み
	医師による褥瘡回診を開始し褥瘡改善に努めました。 褥瘡発生者には月1回評価(DSIGN)を行い褥瘡状態の把握と改善に努めました。 ブレーデンスケールによる褥瘡アセスメントを行うことで褥瘡予防に努めました。

- ④ 著しい成果のある職員の表彰
- ⑤ 介護補助器具等の購入や介護支援ソフトの有効活用
- ⑥ 認定特定行為業務従事者研修の受講を支援  
a 認定特定行為業務従事者研修 2人(2人)
- ⑦ 定期健康診断、腰痛対策、ストレス対策の実施  
a 定期健康診断実施(5月、11月)  
b ストレスチェック実施(9月)
- ⑧ 働き方の改善による時間外労働時間の削減、有給休暇取得率の向上  
a 時間外労働時間
- |         |                    |
|---------|--------------------|
| 時間外労働時間 | 2571.4時間(1942.3時間) |
|---------|--------------------|
- b 有給取得率
- |       |              |
|-------|--------------|
| 有給取得率 | 79.5%(81.7%) |
|-------|--------------|
- ⑨ ハラスメント対策の強化
- ⑩ 文書負担軽減や手続きの効率化による業務負担の軽減目的として補助金を活用し新たなシステムを導入しました。

## 6. 運営管理

(1) 年間計画に沿って点検及び美化活動を実施すると同時に旧施設の保安業務も行いました。

① 快適な生活環境の提供に必要な修繕と美化活動

a 点検・整備

レジオネラ菌検査	2月	建設設備定期報告	—
貯水槽点検	6月	水質検査	6月、2月
消防設備点検	9、3月	防災管理自主点検	5、9、1、2月
エレベーター点検	毎月	電気設備点検	各月
福祉機器点検	使用前	医療機器点検	使用前
厨房機器点検	使用前	車両点検	運行前

b 施設美化

エアコン清掃	年2回	換気扇清掃	年1回
--------	-----	-------	-----

c 施設管理

全館害虫駆除	年2回	厨房害虫駆除	年6回
--------	-----	--------	-----

② 生産性向上を目的として補助金を活用し新たなシステムを導入しました。

(2) 組織強化に取り組みましたが、体調不良や結婚等の理由により職員の退職が続きました。

① 安定的な人材確保のため求人登録や学校訪問を積極的に行う

② 資格者の安定確保

③ 適正な職員配置に努める

## 7 利用者状況 (定員 78 人)

(1) 食事場所 R7.3.31 現在 利用者 69 人、内入院者 3 人

2階食堂	23人(17人)	3階食堂	22人(22人)
2・3階居室	12人(12人)	経管栄養食者	9人(10人)

(2) 食事 R7.3.31 現在 利用者 69 人、内入院者 3 人

自立	35人(34人)	一部介助者	15人(12人)
全介助者	7人(7人)	経管栄養食者	9人(10人)

(3) 排泄 R7.3.31 現在 利用者 69 人、内入院者 3 人 数に重複あり

自立	0人(0人)	トイレ誘導者	10人(10人)
ポータブルトイレ使用者	19人(17人)	オムツ使用者(紙オムツ)	52人(43人)

(4) 入浴形態 R7.3.31 現在 利用者 69 人、内入院者 3 人

介助浴者	17人(15人)	特浴者	49人(46人)
------	----------	-----	----------

(5) 移乗 R7.3.31 現在 利用者 69 人、内入院者 3 人

自立	7人(6人)	一部介助者	19人(15人)
全介助者	40人(40人)		

(6) 移動方法 R7.3.31 現在 利用者 69 人、内入院者 3 人 数に重複あり

自立	0 人( 0 人)	手引き歩行	0 人( 0 人)
杖	0 人( 1 人)	シルバーカー	1 人( 4 人)
歩行器	2 人( 3 人)	車椅子	34 人( 27 人)
リクライニング	0 人( 8 人)	ティルトリクライニング	22 人( 25 人)
自動ブレーキ車椅子	7 人( 3 人)		

(7) 更衣 R7.3.31 現在 利用者 69 人、内入院者 3 人

自立	1 人( 1 人)	一部介助者	19 人( 18 人)
全介助者	46 人( 42 人)		

(8) 長谷川式 R6.10~R7.3 利用者 79 人

0 点	10 点未満	20 点未満	20 点以上	30 点
15 人( 12 人)	33 人( 27 人)	17 人( 7 人)	6 人( 4 人)	8 人( 1 人)

(9) 待機者数 R7.3.31 現在

女性	81 人( 88 人)	男性	55 人( 45 人)
		合計	136 人( 133 人)

(10) 利用者年齢状況 R7.3.31 現在

最高年齢者	102 歳( 101 歳)	最低年齢者	71 歳( 70 歳)
		平均年齢	88.8 歳( 87.8 歳)

(11) 入所者数 R7.3.31 現在 利用者 69 人、内入院者 3 人

女性	61 人( 53 人)	男性	8 人( 8 人)
----	-------------	----	-----------

(12) 新入所状況

	女性	男性	合計
新規利用者数	24 人( 20 人)	2 人( 4 人)	26 人( 24 人)
内：在宅生活者	3 人( 4 人)	2 人( 2 人)	5 人( 6 人)
内：病院入院者	6 人( 10 人)	0 人( 0 人)	6 人( 10 人)
内：老健利用者	11 人( 4 人)	0 人( 2 人)	11 人( 6 人)
内：療養型利用者	0 人( 0 人)	0 人( 0 人)	0 人( 0 人)
内：グループホーム	1 人( 0 人)	0 人( 0 人)	1 人( 0 人)
内：養護老人ホーム	0 人( 0 人)	0 人( 0 人)	0 人( 0 人)
内：有料老人ホーム	0 人( 1 人)	0 人( 0 人)	0 人( 1 人)
内：サ高住	0 人( 0 人)	0 人( 0 人)	1 人( 0 人)
内：その他	2 人( 1 人)	0 人( 0 人)	2 人( 1 人)

(13) 市町村別入所状況 R7.3.31 現在 利用者 69 人、内入院者 3 人

三原市	66 人	尾道市	2 人
竹原市	1 人		

(14) 在所期間状況 R7.3.31 現在

全利用者

最長利用者	11年8ヶ月	最短利用者	6日
		平均	2年8ヶ月 (2年10ヶ月)

(15) 退所者状況

	女性	男性	合計
退所者数	16人(30人)	2人(6人)	18人(36人)
内：長期入院	3人(5人)	2人(4人)	5人(9人)
内：死亡	12人(25人)	0人(3人)	12人(27人)
内：その他	1人(0人)	0人(0人)	1人(0人)

(16) 利用者介護度分布 R7.3.31 現在 利用者69人、内入院者3人

要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合計
0人(1人)	1人(0人)	16人(16人)	29人(27人)	23人(17人)	69人(61人)
0%(1.6%)	1.4%(0%)	23.1%(26.2%)	42.1%(44.3%)	33.4%(27.9%)	100%
平均要介護度					4.0(4.0)

(17) 平均稼働率：入院者除く

(単位：%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
76.7(85.7)	71.7(82.2)	73.0(80.6)	79.2(81.6)	79.8(85.7)	73.0(88.0)
10月	11月	12月	1月	2月	3月
75.8(90.7)	76.1(86.6)	77.5(82.3)	79.8(79.2)	81.6(78.0)	82.5(77.5)
年平均					76.8(83.2)

8. 数値目標 (部門別)

部門	内容	R6年度結果	R6年度目標
介護	身体的拘束者(ミトン)	7人(解除者6人)	8人(解除者8人)
	医療ケア(喀痰吸引等)を担当する介護員養成	0人	4人
	認知症実践者研修	0人	1人
	認知症リーダー研修	0人	1人
看護	医療ケア(喀痰吸引等)を担当する介護員養成	0人	1人
	褥瘡発生率	3%	3%
	看取り介護研修	2回/年	2回/年
	看取り介護手順書に沿った看取り介護の対応	100%	実施できて100%
栄養	経口維持の取り組み	7人	6人

相談	稼働率 入所日数の短縮化 地域貢献事業の実施 継続的な個別機能訓練	76.8% 33.1 日 1 回 随時	94% 14 日 年 1 回以上 随時
事務	電気使用量 水道使用量 ガス使用量	対前年比 101.8% 対前年比 88.6% 対前年比 91.8%	対前年比±0
共通	ヒヤリハット件数 事故の件数 介護支援専門員資格取得者	対前年比 43.6%減 1 件 0 人	対前年比 20%減 0 件 1 人以上

# 令和6年度すなみ荘ショートステイ事業報告（案）

## 事業概況

令和6年度は、施設内で新型コロナウイルス対策に翻弄されてしまったことや職員不足が顕著な状況になってしまい、十分な受け入れ態勢を維持することが困難な状況となり、受け入れ制限を継続したことから稼働率は低迷してしまいました。

## 長期目標

- (1) 認知症高齢者、医療ニーズの高い中重度の高齢者、単身高齢者に対して、切れ目のないきめ細やかなサービスの提供に努めました。
- (2) 利用者の自立支援・重度化防止に向けて、多職種協働・データ活用の推進に取り組み、質の高いサービスの提供に努めました。
- (3) 良質な介護サービスの効率的な提供及び安定的な職員確保による働きやすい職場づくりに努めました。

## 短期目標

- (1) 受け入れ制限を行っていたことから新規利用者を稼働率の向上に繋がりませんでした。
- (2) 介護保険制度改正に伴い生じるサービス提供内容や方法の変更に向け取り組みました。
- (3) 利用者本位の介護を実施するよう取り組みました。
- (4) BCP（事業継続計画）を活用した防災対策の推進に取り組みました。
- (5) 職員の資質向上に取り組みました。

## 運営計画

※以下、（ ）内は前年度数値

### 1. 快適な利用の支援

- (1) 利用期間中は利用者や家族が安心して過ごしていただけるよう努めました。
  - ① 在宅生活継続を考慮したケア・マネジメントの実施
  - ② 笑顔で思いやりのある心の届くコミュニケーション
  - ③ 健康管理と療養指導
  - ④ 栄養・嗜好品に配慮した安全な食事の提供
  - ⑤ 在宅生活に即した機能訓練と余暇活動の支援
  - ⑥ 羞恥心やプライバシーへの配慮
  - ⑦ 自己決定権や選択権の尊重
  - ⑧ 高齢者虐待や身体的拘束廃止に向けた担当を定め対策を実施
  - ⑨ 持参物品の管理の徹底
  - ⑩ 清潔で安全で安心な環境の整備
  - ⑪ 季節感のあふれる事業所の雰囲気づくり

### 2. リスクマネジメントの徹底

(1) 事故や災害などから利用者を守るため、必要な体制作りや対策を継続的に行いました。

- ① 利用中のリスク対策に関する情報収集
- ② 職員への情報の周知の徹底
- ③ 介護事故やリスクを予測した防止対応

a ヒヤリハット、介護事故件数

ヒヤリハット	4件( 4件)	事故	0件( 0件)
--------	---------	----	---------

b 市町村への報告回数

0件( 0件)

- ④ 感染症や食中毒に対する標準予防策の徹底
- ⑤ 感染症の集団感染に備えた訓練及び各対策の徹底
- ⑥ 感染症や災害発生時に、BCPに基づいた対応を実施
- ⑦ 防犯に係る安全確保の補完・強化
- ⑧ リスク発生時の速やかな報連相の実施
- ⑨ 災害被災者の円滑な受け入れ
- ⑩ 各種記録の徹底
- ⑪ 車両点検・整備と安全な送迎の実施

### 3. 信頼され選択していただけるサービス

(1) 利用者や家族、地域から信頼を得られるため、必要があれば各種相談や事業所の持つ資源やノウハウを随時提供しました。サービスについては丁寧な説明のもと同意を得たうえで提供しました。

- ① 各種ケアプランの計画書を作成し、担当者による説明
- ② 利用者及び家族の同意のもと、適切なサービスの提供
- ③ 利用時の様子について正確な情報提供
- ④ 個人情報管理の徹底を図り漏洩防止に努める
- ⑤ 苦情・各種相談への対応

a 苦情件数

利用者	0件( 1件)	利用者家族	0件( 0件)
-----	---------	-------	---------

### 4. 介護予防対策

(1) 住み慣れた地域で生活が維持できるよう、介護予防につながるサービスを提供できるよう努めました。

- ① 在宅生活維持に必要な健康指導や機能訓練の実施
- ② 日常生活を地域で継続していくための支援
- ③ 余暇活動の支援
- ④ なじみの人間関係づくりができる場の提供

### 5. 利用状況 (定員 8 人)

(1) 利用者

男性	1人( 7人)	女性	3人(14人)
----	---------	----	---------

(2) 新規利用者

男性	0人( 2人)	女性	1人( 1人)
----	---------	----	---------

(3) 利用中止者

死亡	3人( 2人)	施設入所	4人( 3人)
入院	1人( 0人)	その他	8人( 3人)

(4) 利用者平均年齢

91歳( 91歳)

(5) 居宅介護支援事業所別紹介者利用延日数

すなみ荘	26日(166日)	宗齊会須波病院	29日(128日)
ニチイ三原	3日(20日)	三原市医師会病院	76日(70日)
東部包括(どりいむ)	7日(5日)	笑顔みはら	28日(92日)
サンライズ	0日(45日)		
		合計	169日(526日)

(6) 平均稼働率

(単位:%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
6.3(21.7)	4.0(19.4)	10.0(23.3)	12.9(25.4)	10.9(17.3)	4.2(23.3)
10月	11月	12月	1月	2月	3月
4.4(15.7)	9.0(11.3)	4.4(16.1)	2.4(15.7)	3.1(11.6)	1.6(14.5)
				年平均	5.7(17.9)

(7) 利用者送迎延回数

須波	0回(22回)	須波西	14回(46回)
須波ハイツ	18回(12回)	幸崎	21回(65回)
田野浦	2回(16回)	西宮	2回(2回)
港町	4回(2回)	宮沖	0回(29回)
明神	0回(22回)	宗郷	0回(10回)
西野	0回(2回)	和田	0回(2回)
宮浦	0回(2回)	皆実	0回(1回)
館町	0回(0回)		
		合計	61回(233回)

## 令和6年度すなみ荘デイサービスセンター事業報告（案）

### 事業概況

令和6年度も引き続き感染症予防対策を実施しながらの営業となりました。今まで職員や利用者が感染した場合は家庭内感染がほとんどで、デイサービスを介しての感染はありませんでした。しかし、令和7年3月、2週間にわたりデイサービスでの感染が広がり、職員2人、利用者5人が罹患してしまいました。この間BCPに基づき、感染症対策を取りながら営業は継続して行いました。感染状況など利用者やご家族に随時情報提供し、ご自宅でも体調管理をしていただくようお願いしました。

新規利用者の確保、稼働率の向上を目指して取り組みましたが、前年度に比べ、新規利用者数は20人で同数でしたが、契約終了者数は27人（前年度18人）に増えています。施設入所、長期入院、死亡者数が増加し、新たに小規模多機能事業所に変更される利用者が数名おられました。また施設入所や小規模多機能事業所に変更の方は利用日数が多い人がほとんどのため、大きな影響を受けました。三原市内にデイサービスが多いこと、80歳代の高齢者がお元気なこともあり、今後、通所系サービスは益々競争が激化していくこととされます。そのため、すなみ荘デイならではの特色を作って利用者獲得に努めてまいります。

### 長期目標

「在宅生活の支援を担う施設運営の確立」

- (1) 病院や居宅介護事業所、他事業所と連携を取りながら、在宅生活が継続できるよう、地域連携の拠点機能としての役割を果たせるよう努めました。
- (2) 感染症予防対策に取り組むことで、継続的にサービスを提供することが出来ました。
- (3) 多職種協働で常に利用者本位の質の高いサービスが提供できるよう努めました。

### 短期目標

「安定したデイサービスを提供するための事業運営」

- (1) ケアマネと連携を取りながら新規利用者の確保や利用日数を増やしてもらうなど努めました。なかなか稼働率向上には結びつきませんでした。その原因として、①すなみ荘居宅の新規受け入れが難しくなったこと ②入院や施設入所、小規模多機能事業所への変更が多かったこと ③市内のデイサービスの事業所が多いこと ④お元気な高齢者が増えたことなどが考えられます。今後もケアマネと連携を密にして、新規獲得に結びつけていきたいと思えます。
- (2) 感染状況に応じて、適宜、感染症予防対策を実施しながら営業しました。利用者の体調確認を行い、症状のある場合は早めに病院受診をしていただき重症化しないよう努めました。また、利用者が安心して利用していただけるよう環境整備に努めました。
- (3) 令和6年6月からLIFEを活用し、利用者個々に応じた機能訓練の内容を作成、実施しました。リハビリ効果はすぐには出ない人が多いため継続して行います。
- (4) 認知症利用者が年々増加している上、症状も多様で重度化しています。個別対応を行い利用者に寄り添った思いやりのある介護をするよう努めました。

- (5) 利用者が安全に過ごせるように環境を整備し、見守りを行いました。転倒事故が8件あり、その中で骨折が1件ありました。
- (6) 業務継続計画（BCP）の研修を行い、机上訓練、見直しを行いました。
- (7) 高齢者虐待防止の研修を行い、虐待を起こさないよう努めました。

運営計画※以下、( ) 内は前年度数値

## 1. サービス提供

### (1) 生活相談サービス

- ① ケアプランに沿った通所介護計画書を作成し、利用者及びご家族の同意のもと、適切なサービスを提供しました。
- ② 居宅介護支援事業所や包括支援センターと連携をとりました。デイサービス利用を希望する人が減少していること、すなみ荘居宅からの紹介の減少もあり、新規利用者の獲得が難しかったです。
- ③ ご家族からの相談に応じています。個人情報の保護に努めています。

苦情処理件数	0件(0件)
--------	--------

### (2) 送迎サービス

- ① 利用者の身体状況により車椅子対応車両で送迎を行ったり、地理的状況を考慮し、軽自動車を送迎を行いました。
- ② 送迎前後に車両の点検・整備を行い、常に安全運転に努めました。送迎前後にアルコールチェッカーを使用し酒気帯び検査を実施し記録しました。
- ③ 車両が停まってからシートベルトを外すよう利用者に説明しています。車椅子を車両に固定し、シートベルト2本着用を確認し送迎車に乗りました。
- ④ 車に乗る時に手指消毒を行い、感染予防に努めました。

### (3) 入浴サービス

- ① 身体状況を観察(褥瘡・外傷・発疹・腹部膨満等)し、看護員による医療処置を行い、状況に応じて医療機関への受診を勧めました。
- ② 快適な入浴ができるよう環境を整えました。
- ③ 利用者への声掛けに努め、転倒等の事故が無いよう安全な入浴介助に努めました。

### (4) 食事サービス

- ① 疾病や身体状況に応じて食事形態の見直しや食事用具を選定し、おいしく食事が摂れるよう努めました。
- ② 嚥下状態が悪化している人が増え、トロミをつけて対応しました。食事摂取量を把握しました。
- ③ 食事中に誤嚥等の事故がないよう見守りを強化しました。

(5) 口腔機能の向上

- ① 口腔内をチェックし、自歯及び義歯の歯磨き指導を行いました。義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めました。
- ② 食事前に口腔リハビリ体操を実施し嚥下訓練を行いました。
- ③ 誤嚥性肺炎の予防のため食事姿勢に気を付け、嚥下機能の観察、食後は口腔ケアを実施しました。

(6) その他日常生活上の援助

- ① 移乗・移動：利用者の身体状況に応じた福祉用具（杖・歩行器・シルバーカー・車椅子）を使用し、見守り、付き添い、介助で移動しました。
- ② 排泄：定期的にトイレ誘導を行いました。必要に応じ、排泄動作の介助やおむつ交換を行いました。

(7) 認知症ケア

- ① 認知機能の低下予防のため個別対応で脳トレを実施しました。
- ② 歌を歌ったり、レクリエーションを行ったり、コミュニケーションをとることで脳の活性化を図りました。
- ③ 認知症予防体操に新しく音楽体操を取り入れました。
- ④ 認知症利用者個々の行動や心理状況に応じた対応を行いました。
- ⑤ 利用者の話を傾聴し、利用者が不安にならないよう声掛けしました。

(8) リハビリ（機能訓練）

① 運動器の機能向上（要支援）

令和6年度から要支援の運動器の機能向上の加算はなくなり、リハビリは必須となりました。リハビリ機器を使用しての運動や体操を行いました。リハビリ意欲がある利用者も多く自主的に運動される利用者も増えました。また、利用者やご家族から福祉用具や靴の相談がある時はアドバイスをを行い、必要に応じて購入していただきました。

② 個別機能訓練（要介護）

a 身体機能の向上に向けて、リハビリ機器やカラオケ機器を使用しての運動を行い、個別に訓練を実施しました。

b 日常生活動作（ADL）及び手段的日常生活動作（IADL）訓練を反復的に実施しました。

(9) レクリエーション

- ① 運動や利用者同士のコミュニケーションを促進することで、心身の活性化を図りました。
- ② ゲームや歌を歌うことで脳機能を活性化させ、社交性や協調性を養いました。
- ③ 100マスゲーム、パズル等の個人ゲームや集団でゲームを行い、意欲向上を図りました。

- ④ カラオケ機器を使用した体操やレクリエーションを実施しました。新たにカスタネットや太鼓のバチを使用しての音楽体操に取り組みました。

a 年間行事

月	行 事	参加人数
4 月	花見	全員
	ミニ調理実習（手作りスポーツドリンク・どら焼き）	22 人
5 月	健康教室（新型コロナウイルス）	17 人
6 月	健康教室（熱中症）	21 人
	防災訓練（風水害・地震避難訓練）	15 人
7 月	七夕	中止
8 月	夏祭り	94 人
	人権学習	20 人
9 月	敬老会	113 人
10 月	運動会	78 人
11 月	健康教室（インフルエンザ）	16 人
12 月	健康教室（ノロウイルス）・クリスマス会	18 人
	クリスマス会	108 人
1 月	防災訓練（火災避難訓練）	19 人
2 月	人権学習	20 人
3 月	ひな祭り	中止

## 2 健康管理

### (1) 感染症予防対策

- ① 新型コロナウイルス感染予防対策を少しずつ緩和しながら実施しました。マスク着用（食事、入浴以外）、検温、消毒、加湿空気清浄機の使用、換気、パーティション設置、デイ終了後施設内の清掃・消毒等を実施しました。
- ② 標準予防策を行い、新型コロナ感染症以外の感染症の予防にも努めました。
- ③ コロナワクチン接種やインフルエンザ予防接種終了者の確認を行いました。
- ④ 換気、室温や湿度調整、消毒剤を使用しての清掃などを行い、環境整備を行いました。

### (2) 感染拡大予防策

- ① 利用者に症状がある場合は、速やかに病院受診していただきました。職員や利用者が感染した場合は、一定期間自宅療養していただき、体調が回復してから出勤又は利用していただきました。
- ② 感染症の情報を収集しました。
- ③ 利用者やご家族に口頭や連絡帳で情報提供を行いました。
- ④ 発生時にはマニュアルや BCP に基づき対策を実施しました

- (3) 心身の健康状態を観察し、異常の早期発見に努めました。体調不良時は、家族やかかりつけ医に連絡し情報提供し指示を仰ぎ、病院受診をお願いしました。
- (4) 医療支援対策としてストマー交換・在宅酸素療法・導尿・服薬管理・褥瘡他処置等、かかりつけ医や訪問看護と連絡を取りながら実施しました。

### 3. 地域との交流

- ① ホームページをリニューアルし、「広報すなみ」を年1回発行し、デイサービスの活動をアピールしました。
- ② 閉じこもりや支援が必要な高齢者を居宅介護支援事業所・地域包括支援センター・医療機関等と連携してデイサービスの利用に繋げ、安心して生活できるよう支援しました。
- ③ 高齢者の個別課題解決のため包括、居宅介護支援事業所等に情報提供しました。幸崎連絡会議に参加し地域住民の情報収集を行いました。
- ④ コロナ対策のためボランティアの受入れは中止しました。

### 4. 職員の資質向上

- ① デイサービス会議を月1回開催し、利用者のサービス向上を目指しました。
- ② 職場内研修を月1~2回行い、業務に活かせるよう努めました。
- ③ 業務継続計画（BCP）について、研修・訓練を実施しました。
- ④ 感染症予防及び蔓延防止のため指針を整備し、研修・訓練を実施しました。令和7年3月のコロナ感染拡大時、計画に基づき営業しました。
- ⑤ 虐待防止のための指針を整備し、年1回研修を実施しました。
- ⑥ 入浴介助の研修を実施しました。
- ⑦ 職場外研修はオンライン研修で不定期に開催されました。研修で得た情報を職員に報告・伝達しました。
- ⑧ 年3回接遇チェックを行い、接遇の向上に努めました。
- ⑨ 職員の資格取得はありませんでした
- ⑩ 働き方を改善するための意見を現場から提言できる環境づくりに努めました。
- ⑪ 時間外労働時間の削減を目指し、有給休暇が取得できるよう職員が協力して業務に当たりました。
- ⑫ 定期健康診断、腰痛対策、ストレス対策を実施し、職員が安全に業務できるよう健康管理に努めました。
- ⑬ 職員の処遇改善
  - a 職員配置を毎日考え、業務がスムーズに行えるようにしました。
- ⑭ 事故・ヒヤリハット件数

	件数	内訳
事故報告件数	2件(0件)	転倒骨折1件 車両事故1件
ヒヤリハット件数	11件(8件)	転倒8件 その他3件

⑮ 緊急時対応件数

救急車にて搬送	1人( 0人)
---------	---------

⑯ 施設内設備・美化及び環境作りのため、定期的な点検・整備を実施しました。

貯水槽点検	年1回	水質検査	年2回
消防設備点検	年2回	レジオネラ菌検査	年1回
福祉機器点検	使用前	電気設備点検	月1回
厨房機器点検	使用前	車両点検	運行前
館内安全点検	年2回	害虫駆除	年6回
ワックス清掃	1回	消毒液を使用した清掃	毎日

5. 施設設備の改修

施設内の照明を LED に新しく交換することで、明るくなり快適に過ごせるようになりました。

6. 活動実施状況

(1) 年間利用者数

令和6年度	5,507人	7.8%減
令和5年度	5,975人	7.7%減
令和4年度	6,471人	7.6%減

(2) 平均稼働率

(単位:%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
81.0(69.6)	84.7(70.4)	76.2(67.8)	79.4(70.4)	76.6(66.7)	79.1(69.7)
10月	11月	12月	1月	2月	3月
77.4(68.3)	75.2(69.6)	73.0(62.6)	68.2(66.2)	73.8(69.7)	60.3(64.9)
定員30名 ⇒ R6.4月 定員25名				年間	75.4(68.0)

(3) 地域別利用者延人数

地域	年間延人数	構成比 (%)
須波	1,295人(1,165人)	23.5(19.5)
幸崎	3,399人(3,702人)	61.7(62.0)
和田	352人( 564人)	6.4( 9.4)
その他(宮沖・東町等)	461人( 544人)	8.4( 9.1)
合計	5,507人(5,975人)	100( 100)

(4) 介護度別利用状況 (延べ人数)

要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5
1,911 人(2,278 人)	1,219 人(1,322 人)	721 人(905 人)	188 人 (151 人)	30 人(0 人)
34.7%(38.1%)	22.1%(22.1%)	13.1%(15.1%)	3.4%(2.5%)	0.5%(0%)
自立	要支援 1	要支援 2	合計	平均介護度
0 人(0 人)	322 人(330 人)	1,116 人(989 人)	5,507 人(5,975 人)	1.9 (1.8)
0%(0%)	5.8%(5.5%)	20.3%(16.5%)	100%	

(5) 新規契約者数 (要介護度別)

要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5
3 人(3 人)	2 人(3 人)	1 人(2 人)	1 人(2 人)	0 人(0 人)
自立	要支援 1	要支援 2	計	
0 人(0 人)	3 人(8 人)	10 人(4 人)	20 人(20 人)	

(6) 契約終了者数 (理由別)

自己都合	長期入院	事業所変更	死亡	施設入所	計
3 件(2 件)	7 件(8 件)	4 件(0 件)	6 件(2 件)	7 件(6 件)	27 件(18 件)

(7) 加算取得状況

要介護者

入浴	個別 I	科学的介護	認知症	口腔機能向上
3,218 人(3,725 人)	4,068 人(4,632 人)	384 人(405 人)	1,223 人(1,931 人)	75 人(67 人)

要支援者

科学的介護
258 人(218 人)

## 令和6年度すなみ荘居宅介護支援事業所事業報告（案）

### 事業概況

令和6年4月から職員体制が整い特定事業所加算Ⅲを算定しましたが、再び職員2名体制となったため令和7年3月より中止となりました。逡減制を継続し居宅介護支援費Ⅱを維持することで、ケアマネジャー1人当たりの担当人数をⅡ i 50件未満、それ以上はⅡ ii 60件未満までとし、基本報酬の確保と基本方針のもと、利用者・家族の暮らしが安定するよう努めて参りました。高齢化が一層進展する中で、地域課題の複雑化・複合的な課題を抱えた世帯も多く、身寄りがおらず地域から孤立したケースや虐待による権利侵害、生活困窮に対応するため、他分野や多機関と連携強化による取り組みや研修への参加を積極的に実施しました。また、BCPの見直しにより安否確認の優先順位を適宜作成し、必要な方には災害時の避難方法を記載したケアプランを作成し、行政と共有することで平常時から災害対策を推進しております。

こうした状況から、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるため、民生委員や地域の関係機関との連携が重要であり、見守り強化や地域課題への取組みを行うとともに、地域住民が行うサロンやネットワーク会議へ出向くことが必要であると感じています。

### 長期目標

「業務管理」

- (1) 制度、医療、地域情報を的確につかみ、福祉サービスの向上に努めました。
- (2) 業務（指示・確認）マニュアルの見直しとその実施及び記録に努めました。
- (3) 介護支援専門員の質の向上に努めました。

### 短期目標

「居宅介護支援事業所の信頼保持」

- (1) 介護保険制度に則り、適正な業務に努めました。
- (2) 業務に関して取り扱う個人情報管理の徹底を図り、漏洩防止に努めました。
- (3) 利用者、家族の尊厳保持と信頼関係の構築により、寄り添ったケアマネジメントに努めました。

「質の高いケアマネジメントの提供」

- (1) 介護保険の目的に沿って自立した生活が継続できるよう努めました。
- (2) 要介護状態の軽減または悪化の予防に資することをめざして、適切な保険医療サービスおよび福祉サービスが総合的にかつ効率的に提供されるよう利用者を支援するとともにセルフケアマネジメント支援に繋げて参りました。
- (3) ケアマネジメントの公正中立性を確保し、適切な情報の公表に努めました。
- (4) 特定事業所加算の要件を満たすとともに、地域への情報発信に努めました。
- (5) 自己研鑽、専門性の向上に努めました。

「感染症対策の徹底」

- (1) 介護支援専門員が自ら感染源になることがないように、予防策を講じました。

## 運営計画

### 1. サービス提供

- ① 高齢者の生活環境や心身の状況に応じ、偏りのない保健医療サービス及び福祉サービスが提供されるよう努めました。
- ② ケアマネジメントの公正中立性の確保を図るため、サービス利用の利用割合の説明と介護サービス情報公表制度において公表しました。
- ③ 利用者や家族との連携を密にした適切で迅速な対応を行い、満足度の向上に努めました。(満足度調査)
- ④ 介護予防への取り組みのため、地域資源を生かしながら多職種によるケアマネジメント支援に努めました。
- ⑤ 「自立支援」「介護予防」「地域づくり」「尊厳の保持」を基本とし、効率性や安全性の高い介護予防事業を実施しました。
- ⑥ 高齢者の生活を支える上で、多問題、複合的な問題を抱えたケースに各関係機関と連携し早期対応に努めました。
- ⑦ 三原市高齢者相談窓口事業では、介護保険外のサービスを含む、福祉に関する総合的な相談や成年後見・虐待防止などの権利擁護業務及び世帯の複合課題や制度の狭間にある課題などへの対応を多機関協働での支援に努める。
- ⑧ 車両の点検及び交通安全に心がけ、事故のない業務に努めました。
- ⑨ 地域住民に対し、介護予防に資する基本的な知識(運動器の機能向上、栄養改善、口腔ケア、認知症予防等)の普及・啓発に努めました。
- ⑩ 本人、家族との面接時や遠方の家族に対し、新型コロナウイルス感染症に関する情報確認するとともに緊急時の対応を徹底し、各関係機関の対応方針等を情報共有しました。
- ⑪ 「災害」及び「感染症」に関するBCP(業務継続)を作成し、感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスを継続的に提供することに努めました。

### 2. 情報の保護・管理

- ① 個人の尊厳を保持しながら、利用者が地域社会において安全で快適な生活ができるよう努めました。
- ② 利用者及び家族の権利が侵害される事のないようサービス選択の自由に十分配慮し、確実な同意の上で対応する事に努めました。
- ③ 関係機関、各事業者、利害関係者との情報交換において、法令に従い慎重な個人情報取り扱いに努めました。
- ④ 利用者や家族に緊急事態が生じた場合、状況に応じた適正な情報の活用に努めました。

### 3. 広報活動

- ① 須波連合町内会地域福祉ネットワーク会議、幸崎勉強会等に参加し、地域における課題に他事業所、住民の方々と連携を深めることによって地域福祉の課題解決に向けた多職種による協力体制づくりを推進しました。
- ② 地域福祉活動（サロン）へ参加し、地域との繋がりを深めました。
- ③ 広報誌を活用し、福祉・医療・保健情報及び居宅介護支援事業のタイムリーな情報公開に努めました。
- ④ ホームページを適宜更新し、情報発信に努めました。

### 4. 職員の資質向上

- ① スーパービジョンの実践による人材育成
  - a スーパーバイザー（主任介護支援専門員）は、管理・支持・教育の各機能を果たすことによって、スーパーバイジー（介護支援専門員）が自ら成長することを促し、ケアマネジメントにおける自己完結力の向上やトラブルへの対処能力を養えるよう自己学習等に努めました。
- ② マネジメント技術の向上のため、初任者研修、現任者研修等を実施しました。
- ③ オンライン受講などを活用し、他法人が運営する居宅介護支援事業所との事例検討会や地域包括の事例検討会等への会議に参加し、専門知識習得に加え、発信力、情報収集力、コミュニケーション力の向上、多職種連携に努めました。

### 5. 活動実施状況

※以下、（ ）内は前年度数値

#### (1) 契約者数内訳 R7.3.31 現在

契約者数合計		104.5人(112.5人)		
内 訳	サービス利用	68.5人(96.5人)	入院	0人(6人)
	サービス未利用	0人(3人)	老健入所	1人(2人)

#### (2) 居宅サービス計画年間作成件数

	延べ件数	月平均件数	月最高件数	月最低件数
要介護	1033件(1105件)	86.1件(92.1件)	96件(100件)	67件(84件)
要支援	74件(184件)	6.2件(15.3件)	7件(23件)	3件(7件)

#### (3) 新規計画件数

	件数	月平均件数	月最高件数	月最低件数
要介護	30件(41件)	2.5件(3.4件)	6件(8件)	0件(1件)
要支援	0件(4件)	0件(0.3件)	0件(1件)	0件(0件)

#### (4) 入院・入所者数

延べ人数	月平均人数	月最高人数	月最低人数
48人(53人)	4.0人(4.3人)	9人(8人)	1人(1人)

(5) 死亡者人数

人数	月平均人数	月最高人数	月最低人数
10人(10人)	0.8人(10人)	2人(4人)	0人(0人)

(6) サービス別利用延べ件数 (要介護)

訪問介護	通所介護	短期入所生活	短期入所療養
251件(237件)	484件(577件)	165件(153件)	29件(48件)
訪問入浴	通所リハ	福祉用具貸与	住宅改修
18件(16件)	361件(333件)	701件(651件)	18件(7件)
地域密着通所介護	定期巡回・随時	訪問リハ	訪問看護
80件(81件)	0件(0件)	114件(152件)	157件(166件)
複合型	福祉用具購入		
0件(1件)	12件(4件)		

(7) サービス別利用件数 (要支援)

訪問介護	通所介護	通所リハ	福祉用具貸与
24件(62件)	23件(62件)	7件(23件)	42件(118件)
訪問看護	訪問リハ	短期入所生活	地域密着通所介護
1件(12件)	10件(18件)	0件(0件)	0件(6件)
短期入所療養			
4件(2件)			

(8) 申請及び調査件数

申請件数	月平均件数	認定調査件数	月平均件数
78件(74件)	6.5件(6.2件)	19件(2件)	1.6件(0.2件)

(9) 資格取得者

主任介護支援専門員	0人(0人)	社会福祉士	0人(0人)
-----------	--------	-------	--------

(10) 苦情処理件数

苦情受付件数	月平均件数	ヒヤリハット件数	月平均件数
3件(0件)	0.3件(0件)	0件(0件)	0件(0件)

(11) 高齢者相談窓口

相談件数	28件(29件)
------	----------

(12) 地域交流参加

実施日	実施内容	参加人員
4月15日	困難事例検討会	20人(20人)
5月20日	困難事例検討会	20人(20人)
6月17日	困難事例検討会	20人(20人)
7月15日	困難事例検討会	20人(20人)
9月16日	困難事例検討会	20人(20人)
10月21日	困難事例検討会	20人(20人)
11月18日	困難事例検討会	20人(20人)
12月16日	困難事例検討会	20人(20人)
1月20日	困難事例検討会	20人(20人)
2月17日	困難事例検討会	20人(20人)
3月17日	困難事例検討会	20人(20人)

※困難事例検討会（参加者） 医師、歯科医師、幸崎民生委員、通所介護事業所  
高齢者相談センター三恵苑、居宅介護支援事業所  
訪問看護、小規模多機能事業所

※幸崎交流会（参加者） 高齢者相談

# 苦 情 結 果 報 告 書

第三者委員様

苦情解決責任者

特別養護老人ホームすなみ荘

すなみ荘ショートステイ

施設長 里 村 学

次のとおり、苦情の申し立てがありましたので、報告いたします。

受付期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日
受付担当者	生活相談課長 城平 敏彦

苦情発生年月日	申出人	苦情内容	対 応
苦情なし	—	—	—

# 苦情結果報告書

第三者委員 様

苦情解決責任者

すなみ荘デイサービスセンター

管理者 青野 美佐子

次の通り、苦情の申し立てがありましたので、報告いたします。

受付期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日
受付担当者	介護員兼生活相談員 金居 由華

苦情発生年月日	申出人	苦情内容	対応
苦情なし	—	—	—

# 苦 情 結 果 報 告 書

第三者委員 様

苦情解決責任者

すなみ荘居宅介護支援事業所

管理者 景 山 法 子

次の通り、苦情の申し立てがありましたので、報告致します。

受付機関	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日
受付担当者	介護支援専門員 實利 真由美

苦情発生年月日	申出人	苦情内容	対 応
R6.7.9	利用者家族	<ul style="list-style-type: none"><li>・区分変更時にサービスの回数減少や受けられないサービスも生じる可能性がある事を教えてもらえなかった。</li><li>・認定調査時に本人がいない所で、調査員と生活状況の話が出来ると教えてもらわなかった。</li></ul>	ご家族に区分変更時の対応と説明不足について謝罪する。
R6.8.23	利用者家族	<ul style="list-style-type: none"><li>・ケアマネージャーと信頼関係が築けない。</li><li>・相談しても提案をしてくれない。</li><li>・ケアマネージャーを変えて欲しい。</li></ul>	ご家族の意向を傾聴し、意向に沿ったケアマネジメントが出来なかったことに対し謝罪する。 他の居宅介護支援事業所へ担当変更することの同意を得て居宅介護支援事業所変更の調整を行う。

